

淡青丸 研究航海報告

東京大学海洋研究所

- * 航海番号 KT-06-8 次研究航海

- * 観測海域 相模湾

- * 航海期間 H18 5 月 1 日～5 月 10 日
- * 出港日時・場所 5 月 1 日・名古屋港

- * 入港日時・場所 5 月 1 0 日・東京港

- * 寄港期間・場所 5 月 5 日～5 月 6 日・東京港

- * 航海の研究題目 相模湾における基礎生産・粒子フラックス、大気海洋ガス交換の短期間変動

- * 主席研究員（氏名・所属・職名・e-mail アドレス◎は@）
才野敏郎・名古屋大学地球水循環研究センター・教授・tsaino@hyarc.nagoya-u.ac.jp

- * 研究内容, 主調査者（e-mail アドレス）, 観測項目
 1. 自動昇降装置による基礎生産の日内・日間変動
才野敏郎（tsaino@hyarc.nagoya-u.ac.jp）
FRRF による光合成パラメータの鉛直分布を 0400 から 2000 まで 2 時間置きに計測した
 2. 酸素 17 同位体比異常による基礎生産の日内・日間変動
才野敏郎（tsaino@hyarc.nagoya-u.ac.jp）
海水中の溶存酸素中の酸素 17 同位体比異常の鉛直分布を 0400 から 2000 まで 2 時間置きに計測した
 3. 各種培養法による日積算基礎生産の日間変動
才野敏郎（tsaino@hyarc.nagoya-u.ac.jp）
酸素明暗ビン法および酸素 18 同位体添加培養法を 24 時間現場法で繰り返し計測した
 4. 多層型セジメントトラップによる粒子フラックスの鉛直変化
才野敏郎（tsaino@hyarc.nagoya-u.ac.jp）
Knauer 型のセジメントトラップを 20m から 140m 間の 6 層に 1 週間設置し沈降粒

子束の鉛直変化を計測した。

5. 酸素窒素ガス分圧の連続計測による大気－海洋ガス交換係数の日内・日間変動

才野敏郎 (tsaino@hyarc.nagoya-u.ac.jp)

セジメントトラップの係留系の4 m水深に酸素窒素ガス分圧計を設置し、時系列計測を実施、これと合わせた基礎生産の日内変動の計測から大気海洋ガス交換係数の時間変化を見積もる。

6. 湾内グリッド観測データによる酸素収支のモデル化

森本昭彦 (amorimoto@hyarc.nagoya-u.ac.jp)

相模湾定点 S3 から放射状に設定した5本の測線のCTD断面観測を行い、栄養塩、酸素などを計測、モデル研究の初期データとして利用する。

* 乗船研究者氏名・所属・職名

乗船期間：5月1日～5月10日

才野敏郎	名古屋大学地球水循環研究センター	教授
森本昭彦	名古屋大学地球水循環研究センター	助教授
三野義尚	名古屋大学地球水循環研究センター	助手
日沼 公	名古屋大学大学院環境学研究科	大学院生
Patil Jagadish	名古屋大学大学院環境学研究科	大学院生
山田優子	名古屋大学大学院環境学研究科	大学院生
V. V. S. S. Sarma	独立行政法人科学技術振興機構	研究員
保坂拓志	独立行政法人科学技術振興機構	技術員
小林不二夫	株式会社マリン・ワーク・ジャパン	観測技術員

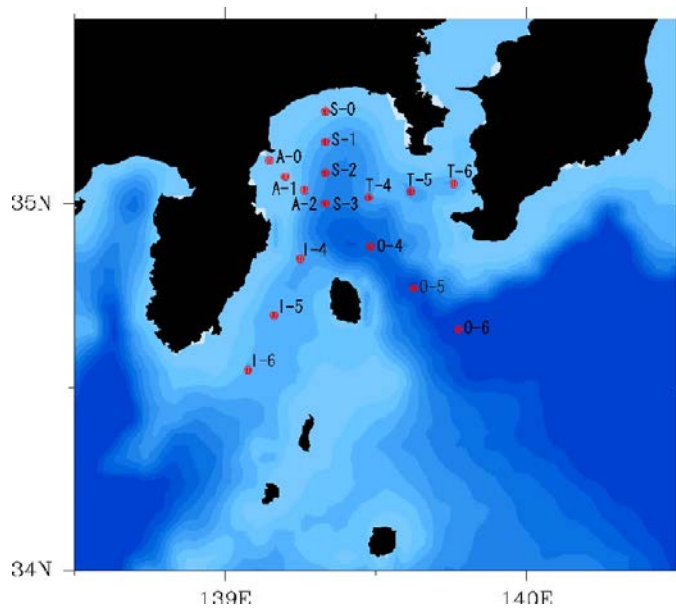
乗船期間：5月1日～5月5日

石丸 隆	東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科	教授
青木のり子	名古屋大学大学院環境学研究科	大学院生
松本 佳	株式会社日油技研工業	研究員

乗船期間：5月5日～5月10日

堀本奈穂	東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科	助手
Dang VH	名古屋大学大学院環境学研究科	大学院生
中村哲也	株式会社日油技研工業	研究員

* 航跡・測点図



	Latitude	Longitude
S-0	35 15.0N	139 20.0E
S-1	35 10.0N	139 20.0E
S-2	35 05.0N	139 20.0E
S-3	35 00.0N	139 20.0E
O-4	34 53.0N	139 29.0E
O-5	34 46.2N	139 37.6E
O-6	34 39.5N	139 46.5E
T-4	35 01.0N	139 28.6E
T-5	35 02.0N	139 37.0E
T-6	35 03.2N	139 45.5E
I-4	34 51.0N	139 15.0E
I-5	34 41.8N	139 09.8E
I-6	34 32.8N	139 04.6E
A-0	35 07.0N	139 08.8E
A-1	35 04.4N	139 12.0E
A-2	35 02.2N	139 15.8E